

核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会セッション

国際社会の核不拡散等分野における日本の一層の貢献・邦人の活躍に向けて
Toward further contribution of Japan and success of Japanese in the field of nuclear non-proliferation and other area in the international society

(1) IAEA の現状と将来、そして日本人職員の活躍に向けた取組

(1) Now and Future of the IAEA and Efforts to Help Japanese Take Active Roles in the IAEA

*齋藤 敦¹¹外務省**1. はじめに**

国際原子力機関（IAEA）は、よく「核の番人」、英語でも「nuclear watchdog」と呼ばれるが、その役割とマンダートは非常に幅広い。具体的には、原子力の平和的利用の促進に関する分野と、原子力が平和的利用から軍事的利用に転用されることを防止するための保障措置の分野に大別されるが、本セッションでは、まず IAEA の取組の現状と将来の展望、具体的には平和的利用分野では、新型コロナウイルス対策に係る取組及び海洋プラスチック対策等を通じた持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた取組、不拡散分野では、北朝鮮やイランの核問題への取組について紹介する。セッションの後半では、日本政府全体で取り組んでいる日本人職員の増加及び昇進に向けた支援について、IAEA における現状や課題を取り上げる。

2. IAEA の取組の現状と将来の展望

原子力は、発電のみならず、保健・医療、食糧・農業、環境、産業応用などの分野でも活用されている。これら非発電分野での原子力の平和的利用の促進と開発課題への貢献は、開発途上国が NPT 加盟国の大半を占める中で重要性が増してきている。IAEA も、開発途上国への技術協力を行うとともに、SDGs 達成に向けて取り組んでいる。

北朝鮮は 2002 年に IAEA の査察官に退去を通告して以降、IAEA による査察を長い間受け入れていないが、IAEA は北朝鮮の核開発の状況を監視・検証し、定期的に報告を行い、また IAEA 総会の場でも、例年決議を採択している。我が国を含む国際社会は、一体となって国連安保理決議を完全に履行していくとともに、関係国とも連携しながら、引き続きこうした IAEA の努力を支援していく。イランについて、IAEA は、2016 年 1 月以来、いわゆるイラン核合意の履行の監視・検証を継続的に行ってきた。

3. 国際社会で活躍する日本人

IAEA を含む国際機関は、国際社会共通の利益のために設立された組織である。世界中の人々が平和に暮らし、繁栄を享受できる環境作りのために、様々な国籍の職員が集まり、それぞれの能力や特性をいかして活動している。国際機関が業務を円滑に遂行し、国際社会から期待される役割を十分に果たしていくためには、専門知識を有し、世界全体の利益に貢献する能力と情熱を兼ね備えた優秀な人材が必要である。日本は、これら国際機関の加盟国として政策的貢献を行うほか、分担金や拠出金の拠出を行っている。また、日本人職員の活躍も広い意味での日本の貢献と言える。IAEA においては、2009 年から 2019 年まで、故天野之弥氏が事務局長を務めた。

現在、900 人以上の日本人が専門職以上の職員として世界各国にある国連関係機関で活躍しており、過去最多となった。日本人職員の更なる増加を目指し、日本政府は 2025 年までに国連関係機関で勤務する日本人職員数を 1,000 人とする目標を掲げており、その達成に向けて、外務省は、大学や関係府省庁、団体などと連携しつつ、世界を舞台に活躍・貢献できる人材の発掘・育成・支援を積極的に実施している。

IAEA も日本人が活躍できる国際機関の一つである。外務省では、関係省庁や団体、企業と定期的に連絡会議を開催し、情報共有の場を設けている他、本年 5 月には、初めての試みとして、IAEA 人事部と共催で「IAEA

による採用オンラインワークショップ」を実施する等、IAEA での日本人職員増加を支援している。

*SAITO Atsushi¹

¹Ministry of Foreign Affairs